

本編 第Ⅱ部

はじめに

本学は、建学の精神を具現化するため、第Ⅰ期中期目標(2009年度～2013年度)、第Ⅱ期中期目標(2014年度～2017年度)を策定し、2018年度からは第Ⅲ期中期目標(2018年度～2021年度)を設定した。

第Ⅰ期中期目標では、法令で定められている認証評価制度への対応も加味し、本学のミッションを実現するための目標と、法令で定められている認証評価制度の自己点検・評価項目の双方の内容を含んだ形で設定された。

第Ⅱ期中期目標では、より本学の独自性を打ち出すために、本学独自の目標と、認証評価制度で求められる自己点検・評価項目は明確に分け、並行して運用することとした。

第Ⅲ期中期目標では、学園マスタープランが策定されたことに基づき、建学の精神である「人類の幸福と恒久的平和の達成」に向けて、第Ⅲ期中期目標の基本方針を quality of life (QOL) の向上と定めた。健やかな社会の構築に向けて、教育・研究・連携をはじめとする諸活動を通じ、QOL の向上に対し積極的に取り組む。そして、教育機関として「人と社会と自然の共生」に向けて、世界で活躍する人材の育成に努めることで、新しい東海ブランドの確立を目指すこととした。

教育研究年報は、「年度単位で教育・研究等の活動成果を一つにまとめることによって、自らを振り返り、その結果から改善につながる行動を起こすことにつなげる」というPDCAサイクルの一部を担うものである。点検・評価活動は大変重要なものであるが、相当な労力とコストがかかっていることも事実である。今後は項目の見直し、システム改修による作業効率の向上を図り、改善活動に力を注ぎ、高い成果が得られるような環境整備を進める必要がある。それを実現すべく、教員活動情報システムのリニューアルや、情報リソースを一元化するための統合業務管理データベースの構築に向け検討・作業を行っている。

本報告書は、2017年度から公益財団法人大学基準協会が第3期認証評価へ移行したことにより、2016年度までの自己点検・評価報告書のフォームから変更している。また、2か年で全ての報告書を作成するようにしているため、2017年度は、基準1から基準4と基準7から基準10を掲載し、2018年度については、基準5と基準6を作成し、掲載していたが(2018年度に開設した文化社会学部と健康学部は、基準1も掲載している)、2019年度より、基準1から基準10を掲載している。